

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年 6月23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200702		
法人名	トータル・メディカル津沢株式会社		
事業所名	グループホーム ひだまり街なか		
所在地	富山県高岡市博労町5番13号		
自己評価作成日	平成29年5月19日	評価結果市町村受理日	平成29年7月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成29年6月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1人1人が落ち着いて自分らしく過せれるように努め、家族さんとの関係も考慮し円満な関係を構築する。又24時間体制の医療との連携。家族、身内、お友達等が気軽に面会に来れる施設。2つの自治会に属し、互いに協力しながら地域貢献をする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者一人ひとりの気持ちや個性を大事にし、利用者に寄り添いながら安全で安心して暮らせるよう支援している。通りの神社への散歩時に、近所の人達と挨拶を交わしたり、職員が町内の草むしりに参加するなど、地域に溶け込むように努めている。また、季節のお花を飾ったりビングでは、思い思いに雑誌を読んだり、お茶を飲みながら談笑するなど、家庭的で和やかな雰囲気をつくっている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		

グループホーム ひだまり街なか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は玄関に掲示し、職員全員が共有するよう努めているが、まだまだ周知徹底されて無い。	理念は玄関に掲示し、カンファレンス時などに説明しているが、理念を共有して実践につなげるような支援ができていないこともある。	経験年数が浅い職員もおり、地域密着型サービスとして、理念を理解し、職員全員が共有した上で理念が実践できるよう、職員の意識を高めていくことが期待される。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は地域の防災訓練や事業には参加しているが、利用者の日常的な関わりはもててない。	通りの神社まで散歩し、行き交う人達と挨拶を交わしている。また、2つの自治会（表通りと裏通り）に属し、草むしりなどには職員が参加するなど、地域に溶け込んだ運営に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けては活かせてない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やグループホームの情報を詳細にお伝えし、地域の情報も聞かせて頂き参考にさせてもらっている。	利用者と地域の人達との関わり方について、自治会や地域包括支援センター職員から提案を受けている。また、家族からの支援方法の要望など、運営推進会議の意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点が生じた時は市役所の高齢介護課に連絡して解決に取り組んでいる。又2ヶ月に1度の運営推進会議の議事録提出の際も会話する機会がある。メールなどの連絡事項には直ぐに返信するようにしている。	高岡市の高齢介護課には、介護保険制度の具体的な運用について説明を受けるなど、良好な関係を築くように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>帰宅願望が強い利用者がおられるので玄関の施錠は行っているが、外に出たい様子が見られれば、声かけしている。</p>	<p>身体的な拘束は行わないよう、具体的な事例をもとに周知徹底させているが、利用者の状態に応じて安全に配慮し、玄関には鍵をかけている。ただ、利用者の様子に留意し、外出の意向があればサポートしている。</p>	<p>安全に配慮した鍵かけであっても、今後は、常態化しないよう工夫することが期待される。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>申し送りやカンファレンスにおいてその都度話す機会を設けている。利用者の皮膚等身体的に異常が無いが、職員が互いに注意している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要性のあるご家族には成年後見人制度を紹介、支援している。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、契約書と重要事項説明書の内容を詳細に説明を行い、最後に不明な点や質問事項にお答えし、理解して頂けるまで説明を行っている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関には意見箱を設置しているが投稿は無い。家族の面会時に利用者の状態や状況を報告し要望を聞いている。又契約時に、苦情・相談窓口の説明も行っている。</p>	<p>家族には、面会時などに日頃の様子を伝え、また、職員のケアに対する意見などを聞いている。利用者からは、食事のメニューなどの要望を聞いている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催のカンファレンスやその都度職員の話をしている。それを毎月開催の管理者会議において職員の意見や要望等を代表者に伝え改善につなげている。	毎月のカンファレンスや2か月ごとの個人面談のほかに、管理者は、日頃から、職員が相談しやすい雰囲気をつくり、職員からの意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施して、自己評価を行っている。しかし、職場の環境・条件の整備が統一化されていない為に個人の目標の設定やモチベーションが低下している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体研修やグループホーム部会の研修に積極的に参加している。又自社での初任者研修にも未経験の職員に働きながら受講してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者や主任はグループホーム協会や県、市開催の研修に参加し知り得た情報をサービスに活かしているが、他の職員の外部研修参加の機会が少なく交流の場がもててない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接から入居してからのアセスメントを通じ、本人にとって必要な取組みを考え、本人が話しやすい環境作りを心がけ、家族との連絡の仲介もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接から契約に至る間、グループホームでの生活の不安や要望等を伺い家族が安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、何を必要とされているのかに基づき要望などの情報を収集してアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭での生活の延長を目指し、生活スタイルを見極め、出来る事に目を向けた介護をし、馴染みの関係作りを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などに家族の話を傾聴したり、毎月の行事等の写真やひだまり街なか通信での状況報告をお送りし返信のお手紙をもらったりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	家族や親戚の方や知人などの面会の際は、居室にてゆっくりお話できるように、又継続的に訪問して頂ける様に心掛けている。	近所の友人や昔の仲間などの訪問があり、居室で談笑している。また、家族の協力を得ながら、馴染みの美容院やお店に出かけるなど、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等を考慮しながら座席を考え、トラブルにならない様に職員が間に入るなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今までの生活内容の情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中で、本人の思いや何をしたいかなど聞かれた場合、個別で対応できる事は出来るだけ実施するようにしている。	利用者との会話や表情などに留意し、その背後にある本人の思いを把握するように努めているが、利用者の表面的な言動をそのまま受け止め、本人の思いを推し測るまでには至らないことがある。	認知症の特徴や、利用者本人の思いを推し測る手法などを学び合い、本人本位に検討し、支援につなげることが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を把握し、又入居後ご家族から得た新たな情報等も職員が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを使用し時間の経過ごとに観察した本人の心身の状態や変化等を記録し、職員が情報を共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討が必要な課題やケアのあり方については、カンファレンスを開催し話し合いを行っている。本人の意向や家族の意見等必要な場合は、開催前に確認している。	職員全員が介護計画作成に関わるよう、担当制をとり、カンファレンスで意見を出し合っている。家族の要望は面会時などに聞き、介護計画に取り入れている。また、毎日、モニタリング表に記入し、利用者の現状把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを使用し利用者ごとに個別で日々の様子や気づいた事、支援内容など記録している。ケアの実施はケアプラン実施表でもチェックしている。記録の内容は、職員の経験年数によってずいぶん差が生じている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、アセスメントを行い特別な事に関しては、出来る事と出来ない事を十分に検討しサービス提供している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所から近い神社への散歩や行事の際、提供する食品等を地域の店舗から購入している。地域住民との直接的な交流に関しては出来ない。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診は、基本家族支援だが、ご家族が困難な場合や急変時などはご家族と話し合い医療機関への連絡や職員で受診付き添いなど行っている。ご家族が受診に行かれる際、日頃の様子を伝えたり主治医に提出できるよう健康管理表を渡している。	今までのかかりつけ医が、入居後は事業所に訪問診療に来てくれるなど、一人ひとりの利用者と家族の希望に沿った受診支援に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の勤務がある日、各利用者の状態報告や特変あったこと、現在対応している事等その都度報告している。出勤できない時でも看護師の意見や指示がほしい場合は、管理者が連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、直接病院を訪問し口頭と書面で情報（フェイスシートや健康管理表・介護保険情報など）を提供している。退院時は入院情報が把握できるように看護サマリーや診療情報提供書を医療機関へ依頼している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合の状況については本人の状態に応じて必要で可能なサービスは提供していくが、介護度の区分変更申請も検討させていただく事を説明している。終末期のあり方においては常時看護師が在中の事業所で無いので困難な状況ではあるがその時の状態に応じて検討していく事を説明している。	利用者や家族の希望があれば、かかりつけ医や家族、訪問看護サービス事業者と連携し、看取り支援に取り組むこととしているが、経験の浅い職員も多く、今後は、支援に向けて研修などを行い、スキルアップを図ることとしている。家族には、事業所の現状を説明している。	今後は、重度化や終末期に向けた支援のあり方について、職員研修などを行い、職員のスキルアップを図ることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は管理者へ連絡し指示を仰ぐことになっているが、経験年数が浅い職員が多く応急手当や初期対応の訓練を受けた事の無い職員もいる。講習や訓練等まだ行えていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練は実施している。地域の防災訓練にも参加し連係に努めているが経験年数の浅い職員は身につけていない。火災以外の災害に対する防災マニュアルを策定中である。	避難訓練を行っているが、夜間想定訓練については、今後、すみやかに実施することとしている。また、地域の防災訓練に参加し、水害時の対応などの助言を得ている。	今後は、夜間想定避難訓練を実施し、また、地域との協力体制づくりに取り組むことが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フェイスシートを活用して、個人の性格を理解したうえで対応を行っている。話を傾聴する事で気持ちに寄り添い気分を害さない対応を心掛けている。	一人ひとりの気持ちや個性を大事にし、自然と利用者の尊厳を保持できるようなケアに取り組んでいる。また、居室への出入り時などは、本人に声をかけるなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表現しやすいよう、マンツーマンでの会話の時間も作れるよう配慮している。言語での表現が困難な方には表情やしぐさから思いを汲み取れる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候の良い日は外気浴や散歩を希望される方もおられるので、業務の見直しを行いつつも思いに寄り添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類はその時の気分に応じて自己選択、決定して頂いている。朝のブラッシングやスキンケア等自分で出来る所は自立支援する事で気分転換が図れている様子である。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	選択食やホーム喫茶の実施、食事の下ごしらえ（もやしのひげとり、皮むき等）は職員が横に付き添い安全に配慮して行っている。又、食器拭きに関しては意欲が高く習慣化されている。	事業所での暮らしの中で、食事が楽しみとなるよう、献立や味付けを工夫し、美味しいと感じてもらえるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事面での好き嫌い等は事前にアセスメントするように心掛けている。その時々体調や気分に応じて食事形態を変更する事もあり、栄養や水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室の洗面台を使い、歯磨きを行う事で残歯や義歯、歯ぐきの清潔保持が出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はオムツを外しトイレで排泄する事で不快な時間が少なくなるように努めている。又便座に座る事で排便もスムーズに出来ている。尿便意の瞬時的な方の行動、しぐさを観察し適宜トイレ誘導を行い、排泄を見守っている。	一人ひとりのケア方法をカンファレンス時などで検討し、統一した支援に努め、利用者の混乱を防ぎながら排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取量の把握に努めている。体操や軽運動の必要性を伝える事で積極的に参加して下さる方が多い。排便困難な方には朝食前に白湯を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日は決めてあるものの本人の体調や希望に応じて調整している。入浴時間帯や順番についても希望に応じている。	利用者の自立をさりげなく支援するよう、自分でできることはやってもらっている。また、リラックスした雰囲気をつくり、職員との会話を楽しむ場としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調、その時々状況に応じて適宜静養の時間を設けている。又ベッドメイキングや環境整備に努め、快適に休んで頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を一つのファイルにまとめ直ぐに見れる場所で管理している。保管場所に関してはすべての職員が周知している。薬剤の変更や注意事項は連絡ノートと業務日誌に記入している。それに加え口頭でも申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事を企画してメリハリのある生活を心掛けている。利用者が好きな事や興味のある事を会話の中から探り提供する事で張り合いのある日々を過ごしておられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々申し出により室外散歩も行っている。又、ご家族とのコミュニケーションも大切にしている事で利用者の思いを面会時に伝えている。思いを汲みとって外出や散歩の機会を設けて下さっている。	天候や体調を見ながら、隣の老舗お菓子屋さんを通り、神社まで散歩したり、駐車場のプランターの水やりなど、暮らしの中に戸外に出る機会をつくるよう努めている。また、高岡御車山祭りの見物やお花見など、楽しみごとのお出かけも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方の金銭管理は難しく思われる。お金の所持は原則していない。又、家族や後見人の了解を得てここでのお金の心配が無い事を伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。携帯電話を持っておられる方は、用事がある際に連絡を取り合っておられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが落ち着け、自分らしく過せれる席を見つけ出した。快適で清潔な空間となるよう日々の掃除を行っている。又季節感を味わって頂ける様に作品や展示物も工夫している。	扉や椅子などの色使いに配慮し、落ち着いた雰囲気をつくっている。職員が持ってきた季節の花々を利用者と一緒に生けたり、思い思いに新聞や雑誌を読むなど、居心地よく過ごせる共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他にソファも設置しており思い思いの場所でくつろいでおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使っておられた物を持参して頂き配置は本人とも相談し、使い勝手の良い空間作りに努めている。又掃除の後には定位置管理できるよう配慮も行っている。	使い慣れた衣装ケースに衣類を自分で収納したり、亡夫の写真や好きなテレビなどを持ち込んでもらい、その人らしい居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物になるようなものは置かずに安全に移動できるように努めている。トイレや居室等には、貼り紙をして場所を意識できるように配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひだまり街なか
作成日 平成29年 7月 5日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	安全に配慮した鍵かけであっても、今後常態化しないように工夫が必要。	鍵をかけたとの安心感をなくし、毎日人的アプローチで身体拘束をしないケアを行っていく。	人的アプローチ（目配り・気配り・心配り）を毎日実行し、職員間のコミュニケーションを密に業務に当たる。	2ヶ月
2	1	経験年数が浅い職員もおり、地域密着型サービスとして、理念を理解し、職員全員が共有した上で理念が実践できるよう、職員の意識を高めなければいけない。	職員全員が理念を理解し、全員が共有し、毎日のサービスに実践する。	毎日の申し送りの際、声に出して復唱し、職員が意識を持って毎日のサービスに当たる。又、玄関以外にも事業所理念を掲示し周知徹底する。	2ヶ月
3	35	夜間想定避難訓練を行っていない。又、地域との協力体制が確立されているか。	年2回以上実施する避難訓練の内容を夜間の想定で行う。又、自治会長さんや民生委員との協力関係をより一層充実させる。	今月に予定している避難訓練は、日中の想定で、火災警報器の作動の確認も含めての想定のために、次回夜間想定訓練を実施する。また日頃の地域との関係を充実させ、運営推進会議での確認を徹底させていく。	6ヶ月
4	23	認知症の特徴や、利用者本人の思いを推し測る手法などのスキルが弱く、本人本位の支援につなげていない。	認知症の特徴の研修を重ね、利用者本人の思いを推し測る手法などのスキルアップに努め、より良い本人本位に検討し、支援につなげる。	管理者が本年度に開催される認知症実践者リーダー研修を受講予定の為に、そこの研修内容を職員に伝え、職員のスキルアップにつなげたい。又、認知症基礎研修にも数名参加予定である。	6ヶ月
5	33	今後起こってくる、利用者様の重度化や終末期に向けた支援のあり方について、職員のスキルの弱さの改善。	重度化や終末期に向けた支援のあり方について研修を通じてスキルアップを図る。	重度化や終末期に向けた支援のあり方の職員研修を充実させ、スキルアップを図っていく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。